



＞「南部科学工業園区中長期發展策略」第2回對外シンポジウム(10月19日)

学習型組織参与と企画策略

新たな創造性と国際競争力を持たせるために、「南部科学工業園区中長期發展策略」が企画される。本管理局が2004年6月17日に成大研究發展基金会に委託し、内部従業員の学習チームと成大研究發展基金会との6回に亘る内部シンポジウムにより、南科内外環境と競争力の優劣を考察し、發展策略と目標を定めた。更に、その後シンポジウムでの討論成果を用いて、外部との3回に亘る策略シンポジウムを開催し、各界専門学者・園区相關事業機關などコミュニティーの意見をまとめ、成大研究發展基金会は、南科中長期發展未来図・策略目標・均衡指標と執行に関わる意見をまとめ、「南科發展未来図を『最もクリエイティブな製造サービスを有する優位性を持った世界レベルテクノロジー園区』とし、その策略テーマは『四大テクノロジー産業集積を作る』・『研究開発雰囲気作成』・『優良な経営管理環境』と『優れた生活環境』等4項目となっている」。その後、内部では続けて未来図の策定・攻略・バランス指標と行動計画等についての討論がなされ、徹底した執行力を通して、南科を世界的な競争力を持った次世代園区として發展を目指していく。

賞金制度実施成果

行政院国家科学委员会は、2003年から3つのテクノロジー園区の管理機構・科学資料センター・精密機器發展センターに対して、年の12月において執行成果評価を行う。本管理局は2003年に「特優」を獲得して以来、国科会による2004年全体成果評価では、明らかに年度均衡指標(企業誘致数・營業高・就業人口)主要3項目において全て目標値に達し、且つ、迅速に成長している。また、「土地借用率の大幅な増加」・「三大産業群集積呼応効果」・「園区生活機能の大幅改善」・「新たなサービス体制—外商小組の成立」と「南科企業満足度が全園区以上に達している」等の成果を得ており、評価委員の一致した高評価を得られ、再度「特優」と評価され、連続二年間最高の評価を得られた。